

教材開発プロジェクト

1 目的

小・中・高等学校及び特殊教育諸学校の全ての教科でカリキュラム分析を行い、使用可能なデジタル教材を体系的に開発し有効利用を図る。さらに、授業設計の方法や教材作成の手法について共同で研究し、各自の教材作成に活かす。

2 プロジェクト発表会の方法

教材開発プロジェクトの長研員は、プロジェクト発表会を通して教材開発の進捗状況等を話し合い、研修を深める。

プロジェクト発表会は、プロジェクト長研員および関係主事で構成し、毎月第1～第3水曜日に各3名ずつ発表を行う。

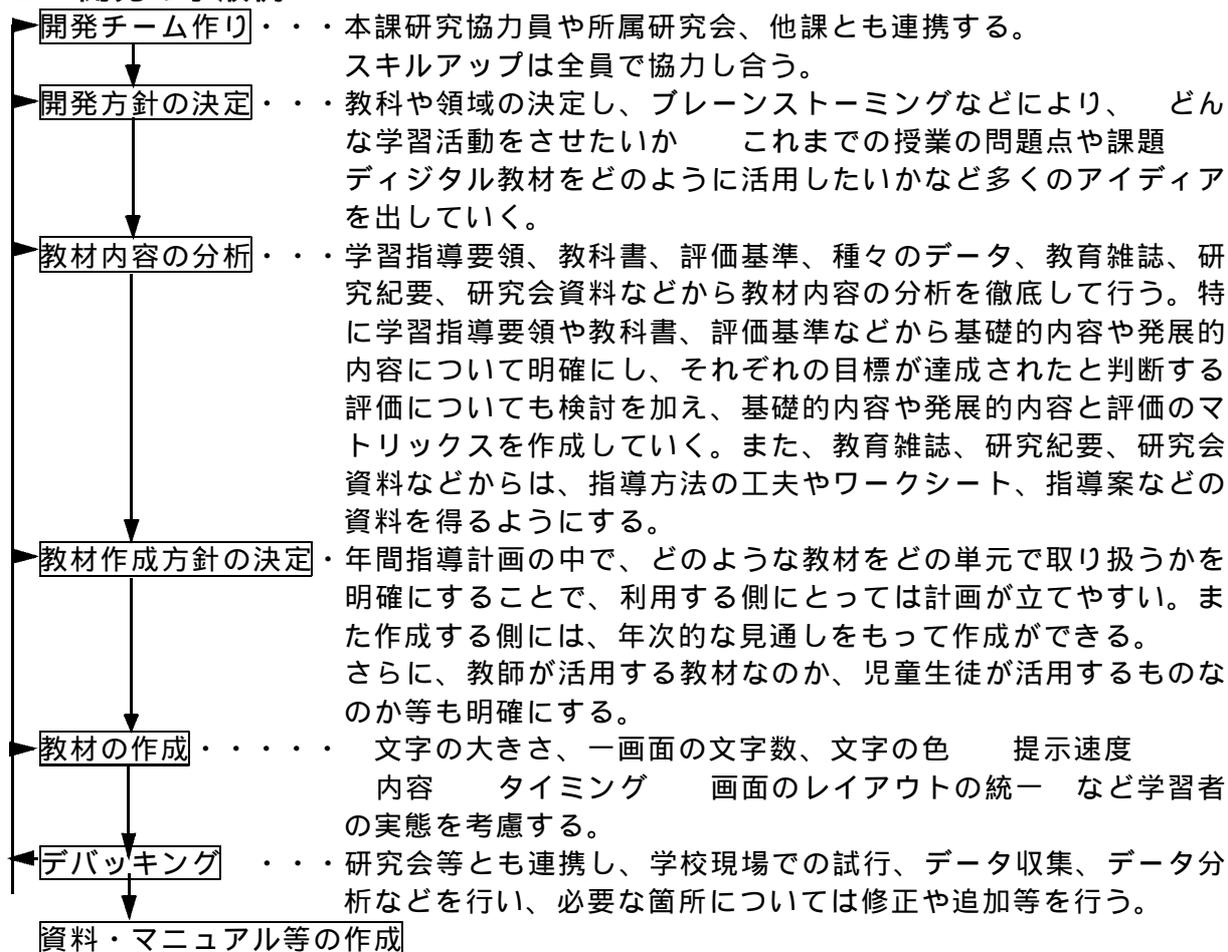
長研員は、各自の教材開発の進捗状況等について説明を行い、説明後、全員で意見交換を行う。また、必要に応じて、教材の提示やデモを行う。

長研員は、出席者から求められる建設的な質疑事項・意見等に対し謙虚に対応し、それを各自の教材開発に反映させる。

(例) 15分の発表に続き、質疑応答や意見交換を15分設定する

特に技術的な側面から出る課題については、主事・長研員全員でサポートしていく。

3 開発の手順例



ガイドブック、手順書、ワークシート、補助資料などもパッケージ化し、提供の準備を行う。

これでひとつの教材が完成する。この手順を繰り返す。

* 小中学校の先生は、CDも作成する。

4 開発するデジタル教材例

(1) 教師が活用できるデジタル教材例

各教科等の年間指導計画例
各教科等の評価基準例
各教科等の学習指導案
ワークシート、配布プリントとその活用方法について書かれた手引書
形成評価のためのチェックテスト
教科書に掲載された教材の補完資料
一斉提示用素材資料（静止画・動画等）とそれを活用した学習指導案
一斉提示用シミュレーション素材とそれを活用した学習指導案
教育情報データベース
各教科の基礎・基本を定着させる教材ソフト
その他

(2) 児童生徒が活用できるデジタル教材例

教科書に掲載されている内容を補完する教材ソフト
教科書に掲載されている内容を補完する素材資料
総合的な学習の時間や、学習のまとめで活用できる素材資料
植物図鑑のようなデータベース
児童生徒が自学自習で利用できるプリント集やオンラインソフト（WBT等）
その他

5 教材の検証

(1) 教材の内容や目標の明確化

どのような児童生徒を対象としているか（理解度、子どもの特性など）
授業にどのような場面で使うものなのか（導入、展開、まとめ、・・・）
何を教えるものなのか（知識、技能、興味・関心、・・・）
教材を活用することで何ができるようになるのか
教材の目標やねらいは何か（基礎・基本、発展・応用、課題解決、その他）
教材の目標やねらいが達成できたかをどのように評価するか

(2) 検証する視点

授業の中で教材の活用場面は適切か
教材は児童生徒の知識理解を高めることができたか。
教材は児童生徒の興味・関心や学習への意欲を引き出せたか
教材を活用することにより、何が達成されたか
使いやすい教材であったか 内容、操作性、ファイルサイズ等

(3) 検証後の改善点

授業の目標、教材の目標、活用方法、評価方法の一致
児童生徒の知識理解を高めることができなかった原因と対処方法
児童生徒の興味・関心や学習への意欲を引き出せなかった原因と対処方法
目標達成のためにはどのような工夫が必要か、資料も含めての検討